

[40_1] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
40(1)

<https://doi.org/10.15017/10690>

出版情報 : 図書館情報. 40 (1), pp.1-20, 2004-07-07. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :

九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 40, No. 1 (2004)

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/>

— 【目 次】 —

附属図書館長就任にあたって.....	2
副館長に就任して.....	3
新しい大学図書館をめざして 筑紫分館新館施設概要・利用案内.....	4
ソウル大学校図書館との交流関係の強化.....	6
第45回開学記念事業	
貴重資料「シーボルト『NIPPON』」展示会・公開講演会を開催	8
学術情報ポータルオンラインサービスについて.....	10
箱崎キャンパス受入目録業務の中央図書館集中化について.....	12
平成16年度電子ジャーナルアクセス可能タイトル数.....	12
平成16年度附属図書館商議委員名簿.....	13
平成15年度九州大学附属図書館入館者統計・利用統計.....	14
人事異動.....	16
図書館日誌.....	18
自著紹介.....	18
本学関係者著作寄贈図書.....	19
分館・図書室等の案内 医学分館.....	20
新図書館だより 第6回	20

筑紫地区総合研究棟

(C - C U B E)

附属図書館筑紫分館は
この建物の1、2階に
新装オープンしました。
(写真下の全面ガラス窓の建物)



附属図書館長就任にあたって

附属図書館長 今 西 裕一郎



4月1日付で、有川節夫前館長の後任として就任しました。

前館長が理系の情報学の専門家であったのに対して、私は文学部出身の日本古典文学専攻です。仕事柄、古典籍を中心とした「本」なしでは過ごせない日々を送っている私は、膨大な古典籍を有する九州大学附属図書館の館長として、一見、適任に思えますが、必ずしもそうではありません。

今日の図書館が、たんに多くの貴重書や膨大な蔵書を誇るだけではその使命を果たすことは出来ないのは、周知の事実です。それらを情報としていかに有効に活用するかが問われています。

日本有数の情報学の権威である前館長は、平成10年（1998）以来6年間の長きにわたって附属図書館長を務められ、その間、専門の知見に基づいた数々の図書館に対する提言、改革を行い、全国の図書館界に九州大学附属図書館の名を高からしめました。中でも特筆されるべきは、研究開発室の創設、国際交流の推進、筑紫分館の設立、の3点でしょう。

私は、数年にわたってその研究開発室の室員の一人として古典籍の画像データベース作成に従事するかたわら、図書館間交流協定締結のため、韓国のソウル大学校や慶北大学校を訪問した前館長に同行し、「本」以外の大学図書館業務の要点を体得させていただきました。

去る5月19、20の両日、ソウル大学校中央図書館の許館長以下7名のライブラリアンが九州大学附属図書館を訪問し、最新の自動書庫を備える筑紫分館において、図書館業務のIT化をめぐる日韓国際セミナーが開催できたのも、前館長時代に蒔かれた種の開花です。

本年4月1日から国立大学法人となって、自主的かつ多様な運営が可能になり、またそれが課せられるようになったという状況下で、わが附属図書館も以前にもまして多彩な活動が期待されます。

今後の大学評価の基準となる「中期計画」において、附属図書館は教育、研究のために次のような措置を掲げています。

- 1．アジアをはじめ世界に開かれた大学を実現するため、附属図書館とアジアの大学図書館の交流を深め、情報資源等の相互利用を推進する。
- 2．電子情報システムを積極的に取り入れた研究環境の整備、図書情報・研究情報の電子化による研究支援体制の充実を図る。
- 3．図書の住民貸出の拡充、貴重な蔵書や学術標本等の展示公開など、教育資源を広く社会へ解放する。
- 4．利用者サービス向上のため長時間開館を推進する。
- 5．全国的に数少ない医学・生物学系の拠点校（外国雑誌センター館）としての全国共同利用の機能をさらに発展させる。

このような課題に十全に対応すべく、副館長には有川前館長と専門を同じくするシステム情報学研究院の荒木教授をお迎えし、国立大学法人九州大学の附属図書館にふさわしい活動を展開していきたいと思っております。大方の御協力をお願いいたします。

（いまにし ゆういちろう 理事・副学長）

副館長に就任して

附属図書館副館長 荒木啓二郎



有川前図書館長ならびに今西現図書館長の御推挙によりまして、この4月1日から附属図書館副館長を拝命いたしました。

30年以上前に工学部の学生であった時に、当時新築されたばかりの中央図書館に毎日のように通っては、実験レポートを書いたり、週刊誌や月刊誌を読んでいたことが思い出されます。新しく立派な施設の中で知的贅沢感に浸っておりました。その後、卒業研究、大学院進学と研究室中心の生活となり、専門書や学術誌などは研究室や学科図書室で見ようになり、中央図書館とも疎遠になっておりました。さらに最近では、インターネットの検索エンジンを利用して種々の情報を得ることが普通になって、私の研究室の学生達も図書館にはほとんど行っていないように見受けられます。

しかしながら、附属図書館のホームページをご覧になっておわかりのように、蔵書検索、電子ジャーナル、文献データベースなどのサービスを直接図書館に行かなくてもネットワークを介して利用できます。前述の学生達も図書館には行かなくても、電子ジャーナルのサービスを使用して論文を閲覧したり手元のプリンタに印刷したりするなどして、日常的に図書館のお世話になっております。

蔵書目録の電子化や文献検索システム、貸出管理システム、所蔵物のデジタルコンテンツ化などの図書館のIT化とインターネットの発展および普及とが相俟って、図書館の役割と利用形態が以前とは大きく変わってきています。特に、九大では図書館と情報基盤センターとが強く連携するということを標榜しています。九大附属図書館が所蔵する膨大な書籍や資料などと情報基盤センターが有する情報やデータの生成、処理、蓄積、利用、転送、共有などの先端技術が協調し融合することによって、大学や地域におけるもろもろの学術的、文化的、創造的、知的活動を強力に支援することが期待されています。

私の専門はコンピュータのソフトウェアですが、20年程前にまず自分の研究室を関西以西の大学では最初にインターネットにつなぎ、その後、九大の学内ならびに九州山口地区でのインターネットの普及に力を注いでまいりました。また、ここ15年くらいは韓国や中国をはじめとして海外の研究者との連携

も強力に推進しております。

というような次第で、前図書館長の有川先生が強力に推進なさってきた図書館および九大全体のIT化、RFID（電波方式識別）や自動書庫といった最新設備を備えた筑紫分館の設立、韓国のソウル大学中央図書館をはじめとする国際連携、新キャンパス移転に伴う理系図書館（仮称）新設などなど、私にとっては個人的にも関係が深いことが沢山あります。

私は、インターネットに関する講演を依頼された時には、必ず、情報とは持っていることによって価値があるのではなくて、利用されることによって価値を生み出すという本質的にダイナミックな性質をもっているものだとして主張してきました。世界中の情報や知識を共有して、利用者が情報と出会い、新たな価値を創造するための場ないしは道具建てとしてインターネットの意義があると述べてきました。一方、図書館には膨大な蔵書や資料が保管されています。世界に一つしかないような貴重な資料も沢山所蔵されています。それらは、それら自身に価値があり、したがって、図書館としては、それらを所蔵していること自体に価値がある訳です。しかしながら、それらの貴重な資料も単に死蔵されていたのでは意味がないでしょう。ITによって、大学および図書館に存在する書籍や資料などの有形の所蔵物と知識や文化や創造性などの無形の知的実体とを融合し、大学における教育研究活動をより一層活性化することを目指したいと考えております。

九州大学は、旧九州芸術工科大学との統合、国立大学法人化、キャンパス移転計画などと激動の中にあり、財政面も含めて社会的に厳しい状況に置かれておりますが、むしろ、大きな変革を遂行する好機ととらえて、大学における知的活動を支える中核施設としての大学図書館の新たな時代を共に迎えることができることを楽しみにしたいと考えております。システム化ならびにネットワーク化、アジアとの国際連携など、私の専門や経験をもとに、今後の附属図書館ならびに九州大学に対して、微力を尽くす所存です。利用者はじめ関係各位の御協力御支援を賜りますようお願い申し上げます。

（あらき けいじろう システム情報科学研究院）

新しい大学図書館をめざして

- 筑紫分館新館施設概要・利用案内

宮岡 大輔

筑紫分館は平成13年4月、筑紫地区に開館してから仮施設でサービスを行ってききましたが、平成16年4月、新しく竣工した総合研究棟に移転し、正式にサービスを開始しました。

新館ではICタグや自動書庫など、他地区の図書館にはみられない最新の技術が導入されており、まさに“新しい”大学図書館のモデルケースとして運用されています。今回はこの筑紫分館新館の施設概要と、利用方法をご案内します。

施設概要

筑紫分館新館は総合研究棟(C-Cube)1、2階に位置し、筑紫地区各部局(大学院総合理工学研究院、応用力学研究所、先端物質化学研究所、健康科学センター、中央分析センター、産学連携センター、大学院システム情報科学研究院)の利用者を主な対象としてサービスを行っています。

延面積は1,588㎡を有し、そのうち所蔵スペースは424㎡、閲覧スペースは196㎡で、利用者用の閲覧座席は75席を準備しています。資料の所蔵には、新しい書庫システムとして自動書庫を導入し、所蔵スペースの効率化と利用者への迅速な資料の提供を

図っています(詳しい使い方は利用案内を参照)。今回導入した自動書庫の収納可能冊数は6万冊で、現在は約2万1千冊の図書が収納されています。このほか図書は1階開架図書閲覧室に約6千冊を配架しています。雑誌は筑紫分館で購読、または寄贈を受けている約200誌を1階一般雑誌開架閲覧室・専門雑誌開架閲覧室に配架しているほか、移転時に各部局から供出を受けた約950誌のバックナンバーを2階雑誌書架(電動移動書架)に配架して利用者に提供しています。

また情報サロンでは情報検索端末20基を利用者に開放しており、Webブラウザを通じて附属図書館の提供している電子ジャーナルや文献データベース等の各種サービスを利用することができます。

利用案内

【開館時間】

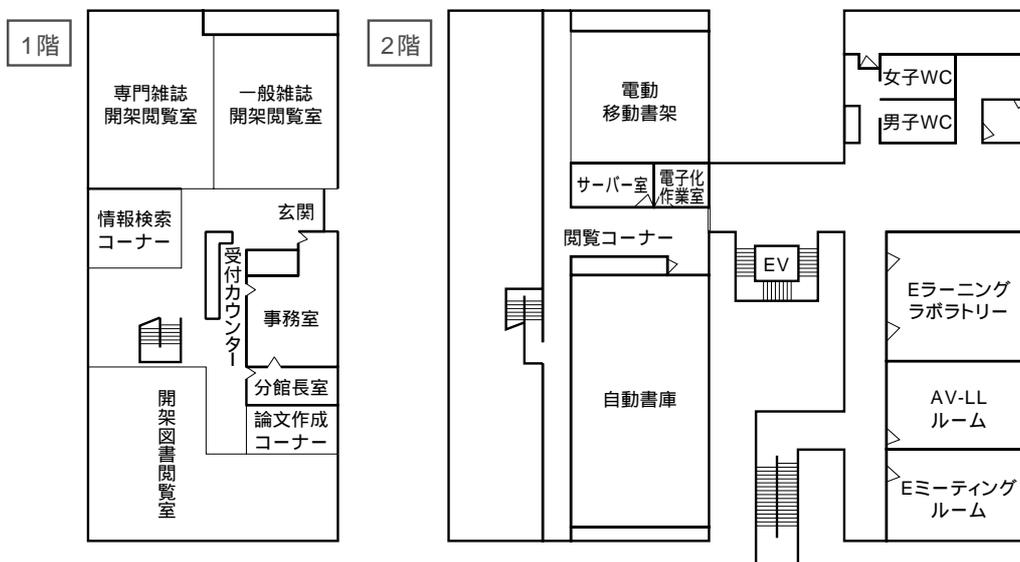
【平日(月～金)】 9:00～20:00

【土曜日】 10:00～18:00

【休館日】

日・祝日、年末年始、8月11日～16日

筑紫分館 新館平面図



閲覧・貸出

筑紫分館へは図書館利用者票または学生証（身分証明書）を提示して入館ください。どなたでも自由に館内の資料を閲覧することができます。ただし視聴覚資料については施錠棚に配架しておりますので、視聴を希望する場合は閲覧カウンターにお申し出ください。職員が資料を出納いたします。

図書の貸出は、図書館利用者票（学生証）を持つ九州大学在籍者について、一律貸出冊数は5冊、貸出期間は2週間までとなります。貸出期限の更新は他利用者からの予約が入っておらず、貸出期間内の申請であれば1回に限り可能です。

ただし雑誌、新聞、参考図書、視聴覚資料については禁帯出資料として貸出は行っておりません。これらの資料の一時持出を希望される場合は閲覧カウンターまでお申し出ください。

なお学内図書配送サービスを利用すれば、直接来館しなくても図書の貸出が可能になりました。このサービスに参加している他地区図書館所蔵の図書も、同様に筑紫分館で受け取ることが可能です。これらサービスの詳細については、別途附属図書館ホームページを確認されるか、お近くの図書館担当掛までお問い合わせください。

複写・相互利用

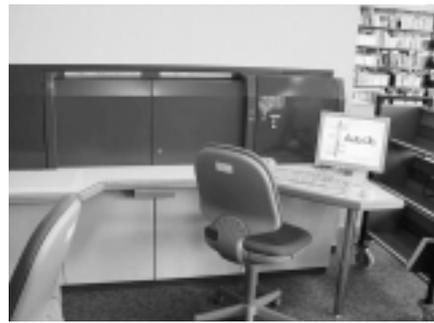
筑紫分館では館内にプリペイドカード式複写機を2基設置しています。プリペイドカードは校費でのみ購入可能で、筑紫分館専用となります。他の図書館等設置複写機には利用できませんのでご注意ください。またカードの購入には申込書による申請が必要です。閲覧カウンターまでお申し出ください。

利用を希望する資料が筑紫分館にない場合は、学内の他地区図書館や他大学図書館等へ文献複写や図書貸借の申込をすることができます。申込書の記入が必要となりますので、複写（貸借）を申込まれる場合は閲覧カウンターまでお申し出ください。その他、より詳しいスケジュールや利用方法は筑紫分館ホームページで案内しています。ご確認ください。
分館 URL : <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/dep/eng/>

自動書庫資料の利用について

ここでは筑紫分館で新しく導入されている自動書庫、ICタグを使った設備の利用についてご案内します。

自動書庫に収納されている資料は九州大学附属図書館 OPAC 上の所在で『筑紫分館 自動書庫』と表示されます。



自動書庫内の資料の利用を希望する場合は、上記 OPAC の所在表示横に記載されている該当資料の資料番号を控えた

上で、閲覧カウンターに利用の旨をお申し出ください。職員が閲覧カウンター横出納ステーションから資料を出納いたします。資料の出納にかかる時間は、およそ2分前後です。出納された資料はその場でお渡ししますが、お渡しした時点では貸出処理されておりません。貸出を希望する場合には別途貸出処理が必要になります。

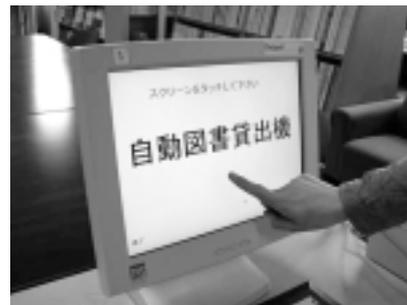
また当面の間、自動書庫資料の出納時間を平日（月～金）9：00～17：00までとさせていただきます。ご注意ください。

自動貸出機の利用手順

筑紫分館では、資料情報を記憶させた IC タグを資料に貼付して図書館システムを運用していますが、このシステムの一つとして自動貸出機を設置しており、図書の貸出処理を原則として利用者自身にお願いしています。

利用手順は以下のとおりです。

- ① 自動貸出機画面にタッチする



- ② 貸出機台上のバーコードリーダーで、図書館利用者票（学生証）のバーコードを読取らせる



- ③ 図書を貸出機台面のスキャン台に置き、IC タグを読取らせる



- ④ 画面内の完了ボタンを押すと、台上の発行機から返却期限の入ったレシートが発行されるので、それを切取って完了。

読んでわかるように手順は驚くほど簡単です。筑紫分館所蔵図書を借りる時には是非ご利用ください。

なお自動書庫所蔵図書などに一部 IC タグの貼付されていないものがありますが、これらの図書については従来どおりカウンターで貸出処理を行っています。図書をカウンターまでお持ちください。

最初に紹介したとおり、筑紫分館は分館としてまだ歴史も浅く資料等で充実していない面があることや、他地区と比べて若干地理的に離れているために、まだ利用者の皆さんにはいまひとつ馴染が薄いかもしれません。

ただ、記事でご紹介したように全国的にみても先駆けたシステムを導入し、かつ他地区図書館とも連携を図りながら今後サービスを充実させていく予定です。筑紫地区の利用者の方はもちろん、他地区の利用者の皆さんも学習・研究のさまざまな機会にぜひ筑紫分館をご利用ください。

(みやおか だいすけ 附属図書館筑紫分館図書掛)

ソウル大学校図書館との交流関係の強化

覚書を交換(5月19日)

大学図書館 IT 化に関する国際セミナーを共同で開催(同20日)

1. 新たな交流関係

九州大学附属図書館と大韓民国ソウル大学校中央図書館は1999年3月に図書館間交流協定を締結して、交流を続けてきた。2001年に大学全体として包括的な学術交流協定を交わしてからは、大学間交流という枠組みのなかで図書館間交流を深める形となった。

本年5月、この形を確実なものとするために、第二次の図書館間交流協定を覚書の形で締結し、これを記念して国際セミナーを開催した。以下、その内容を紹介する。

2. 業務交流に関する覚書

5月19日、ソウル大学校図書館の許南進館長をはじめとする図書館職員7名の訪問を受けた。まず、今西裕一郎館長、荒木啓二郎副館長はじめ九州大学附属図書館関係者との間で資料交換の強化について協議を行った。続いて、大学間の学術交流協定に基づき図書館業務の交流を一層進めることに努力するという趣旨の覚書に、今西館長、許館長が署名した。



署名後握手をする今西館長(左)と許館長(右)

3. 国際セミナー

翌5月20日、両大学の新たな交流関係の第一歩として、共催による国際セミナーを開催した。

新装開館した筑紫分館において、「響きあう図書館ルネッサンス：日韓大学図書館の最新技術と図書館協力」と題したセミナーを開催し、九州地区の国公立大学や企業等25機関から図書館職員や教員等57名の参加があった。

セミナーの冒頭、荒木副館長がテレビ会議システムを使い13km離れた箱崎キャンパスから挨拶したの続き、許館長、経塚雄策分館長が挨拶した。



テレビ会議システムで挨拶する荒木副館長

続いて以下の3件のプレゼンテーションがあった。

- (1) 「ソウル大学校図書館の概要と電子図書館の現状」(金英愛ソウル大学校図書館主任司書)
- (2) 「九州大学附属図書館におけるICタグと自動書庫による図書管理」(南俊朗九州大学附属図書館特別研究員)
- (3) 「国際ILL(GIF)と日韓プロジェクト」(大場高志国立情報学研究所コンテンツ課長)



ソウル大学校金主任司書による報告

金主任司書からは、ソウル大学校図書館の概要と貴重書や医学スライドなど多彩なデジタルコンテンツの紹介を中心に電子図書館の整備状況について報告があった。南特別研究員からは、筑紫分館におけるICタグを活用した図書管理および自動書庫による図書の出納に係る現況と今後の展望について報告があった。さらに、大場課長からは、日本と韓国の大学図書館等で近く実験がはじまろうとしている日韓ILL/DDプロジェクトに関する最新の報告があった。続いてもたれたディスカッションでは、ネットワークを介して日韓の大学図書館が新しい協力関係を構築するうえでの課題等について活発な議論が交わされた。

なお、セミナーにはテレビ会議システムによって国立情報学研究所および東京大学附属図書館から視聴参加があり、会議のために出張中であった今西館長が東京大学附属図書館からメッセージを伝えた。

セミナー終了後、筑紫分館の館内ツアーがあり、

我が国の大学図書館で初めて運用されているICタグによる図書管理や自動書庫による図書の出納処理の説明が行なわれ、参加者からは多くの熱心な質問が出されていた。



ICタグシステムの蔵書管理キットを手にした説明に熱心に聞き入るソウル大学校関係者



筑紫分館内に集まったセミナー参加者

なお、国際セミナーについての詳しい情報は、<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/040520/>を参照。

4. 響きあう図書館

今回のソウル大学校との覚書調印そして国際セミナーの開催は、「大学図書館間で同じ目標を目指し、相互に経験を交流し英知を共有し協力することこそが、真に、互いの利益となり発展につながる」(ソウル大学校許館長)という図書館協力のあり方を再認識する契機となった。

また、九州大学とソウル大学校の図書館が、「それぞれの大学の中で確固たる足場を固めながら、大学を越え、国を越えて、互いに共鳴しあうことで、社会全体に波紋を広げて行きたい」(九州大学荒木副館長)という言葉にあるように、互いに響きあうことが実感できた機会でもあった。

第45回開学記念事業

貴重資料「シーボルト『NIPPON』」 展示会・公開講演会を開催

中央図書館・医学分館でジョイント展示会

附属図書館では、開学記念行事の一つとして、図書館および学内の各部局で所蔵する特色ある資料を選定して公開する貴重資料展示会・講演会を毎年開催しており、今年で45回目を迎えました。

今回は、江戸時代に西洋科学を伝える重要な役割を果たしたオランダ医者之一人、ドイツ人フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトの日本滞在中及び江戸参府紀行（長崎出島のオランダ商館長の江戸参府に絵師とともに随行した）の中で生まれた著書「NIPPON」初版本に焦点をあて、「シーボルトの見た日本」というテーマで、中央図書館と医学分館を会場に、100枚以上の図版の原資料を展示しました。展示の企画に際して、長崎大学附属図書館、福岡県立図書館、そして長崎にあるシーボルト記念館などの協力を得て実質的に図書館の地域連携、一般開放の一つのモデルとしました。

医学分館で発見されたこの資料は、当時の出版形態を残した未製本の状態でした。初版本を所蔵している図書館は国内に十数館あると言われてはいますが、それらの大部分は購入者が独自に製本したものであり、本学所蔵分は未製本であったがために1枚ずつ取り扱うことができ、今回のような展示が可能となったものです。



展示会会場

「シーボルトが観た日本の人々と風俗」、「江戸参府紀行」、「シーボルト事件顛末記」、「シーボルト 妻と娘と息子達」、「シーボルトの心残り」、「シーボルトと医学」（これは医学分館で開催）というテーマ

に分け、原資料をパネルに入れて展示しました。

この企画は地元マスコミでも大きく取り上げられ、テレビ3社で4回の放映、新聞も3社、ラジオでも報道されました。図書館の広報などの取り組みも例年の幅を超え、自治組織、私鉄沿線、市内各所での働きかけも実施しました。

展示会は例年どおり10日間で、土曜、日曜も含む5月10日(月)から19日(水)までで、天候不順の条件にもかかわらず、前年より約40%増の620人を超える多数の入場者がありました。初日には、折から来学中の原田義昭前文部科学副大臣も来場され興味深く参観されました。



講演会会場

また、5月15日(土)に中央図書館視聴覚ホールで開催された公開講演会は、シーボルト研究の泰斗である長崎純心大学教授宮坂正英氏による「日本情報編集者としてのシーボルト」と、本学総合研究博物館助教授宮崎克則氏による「“再発見”シーボルト『NIPPON』」と題した講演が実施されました。多くの市民の参加により100名を越える入場者となり、「NIPPON」展示の意義について興味深い話が繰り広げられ、聴衆は熱心に耳を傾けていました。

医学分館の展示について

中央図書館とジョイント展示した医学分館では、医学に関する図版のほか、『日本』のなかでも特に生活に関わる図版や日本地図を中心に、現在との対比を楽しめる展示としました。また、医学分館が所

蔵するシーボルトの『日本植物誌』やシーボルトに学んだ弟子達の医学書も同時に展示しました。展示期間は5月10日(月)から5月15日(土)までの一週間でしたが、市民等180名を超える入場者がありました。特に中央図書館展示との掛け持ちの入場者が目立ちました。

アンケートの声から

『まずは180年程も前の写実的な描写のすばらしさに感動しました。又、シーボルトがヨーロッパに日本を紹介したその勇気(追放されるような時世)を身にしみて感じました。展示室の配置、その所々にすてきに生けられた花がひととき目立ち、静かにゆっくりと鑑賞出来るすばらしい雰囲気でした。ありがとうございました。』 (学内 50代以上 女性)

『感動しました。長崎市大浦町生まれの私です。「長崎湾」図でなつかしい大浦、ネズミ島、(昔、海水浴場)など見つけて嬉しい。昔も今も変わらない長崎の行事「新年」図の中の「はたあげ」、八月の「盆」精霊流しも現在に受け継がれており、これも嬉しい。シーボルトが日本を丸裸にしてしまったような全体の印象です。』 (市民 50代以上 男性)

『私は、附属図書館の利用が、昨日とあわせ、まだ2回目、今日はシーボルトに関心を持つ父を連れて展示を拝見しました。父は九州大学構内に入るのが初めてでしたが、長崎市生まれであるため、非常に喜んでおります。(私も鳥栖生まれ、長崎市が本籍)シーボルトの功績は医学面で大きいようですが、その才能を生かした絵の描写は、風俗文化を伝える貴重なものだと思います。企画展示にお礼を申しあげるとともに、九州大学全学のご発展を今後も祈念致します。生花も大変良かったです。』

(市民 50代以上 女性)

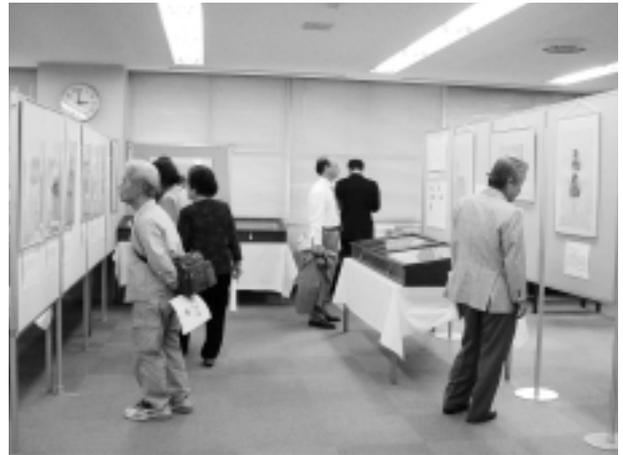
『すばらしい展示で感激しました。九大法医学教室が「日本」を購入したことは初めて知りましたが、古き良き時代の象徴で今では考えられないことです。医学部法医学教室で収集された貴重な古文書もそうですが、九大の宝として保存と共に、機会を捉えて公開することが望まれます。』

(学内 50代以上 男性)

『これだけの文献を無料で見せていただきありがとうございました。展示に携わった方々に感謝します。特に地図が興味深かったです。(地名等々)楽しかったです。新緑の中で鳥の声を聞きながらの充実した日曜日でした。』 (鹿児島 50代以上 女性)

『貴重な資料を一般の人々にも公開していくという姿勢はとても大切だと思う。文化財に対する理解を深めてもらってこそ、研究の意義があると言えるだろう。このようなかたちでの市民との交流のあり方にとっても関心をもった、すばらしいことだと思う。』

(学内 30~40代 女性)



展示に見入る市民の方々

『アジアとの関係を標榜される九州大学に相応しい、素晴らしい展覧会と思い、関係者に感謝したい。引き続いて長期の計画でアジアとの関連の展示会をしていただいたら有難い。また、一般の周辺の人々が近づきやすいように、一日も早く大学博物館が造られんことを希望しています。』

(県内 50代以上 男性)

『大学に到着するまでは簡単でしたが、学内に入ってから大変苦労しました。何も案内がない。ここに来るまで学生さんに2~3度聞きました。「図書館はこっち!」「イベントはこちら!」と大きく案内板を掲げて下さい。初めて九州大学に来た私はあっちうろろ、こっちうろろ大変でした。雨も降っているし!!わたしの様に単科大学卒業の者は「お上りさん」と同じです。』

『朝鮮通信使関係に興味を持っていますが、漂流民の取扱の記事など朝鮮関係の展示に特に興味があり、参考になりました。シーボルトが囚われの身ながら、彼らの自由な行動を与えられた境遇を羨んでいることなど。おんもんの古い字などもよかったです。全般的にしっかりと構成され、大変参考になり、シーボルトへの理解も一段と深まりました。ありがとうございました。』 (市内 50代以上 男性)

この他、たくさんのご意見をいただきました。

(深川 光郎 情報サービス課図書館専門員)

学術情報ポータルオンラインサービスについて

My Library <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/websevice/guide/introduction.html>

従来の Web サービスがバージョンアップしました。各サービスを統合し、検索ツールへのリンクも追加した My Library としてデビューです。My Library では下記のサービスをご提供しています。

貸出資料照会 / 予約資料照会

図書館に行かなくても、自分が何を借りているのか、いつまでに返却すればいいのか、どんな本を予約したかがわかります。

文献複写申込 / 学外への図書借用申込

自宅や研究室から、文献複写および学外所蔵の図書借用を申込みます。九大に無い資料が欲しい時に。

文献複写 / 図書借用進捗状況照会

依頼した文献複写 / 図書借用がどのような状況になっているのか調べられます。

その他に

図書館からのお知らせや今日の開館時間、OPAC、NACSIS Webcat 等検索ツールへのリンク。



My Library を使えるように利用申請を！

My Library や OPAC からの学内図書配送サービス・学内文献複写サービス（後述）を利用するには、利用申請が必要です。

現在 Web サービスをご利用の方は、その利用者 ID とパスワードをそのままご利用いただけます。

まだ利用申請をされていない方はぜひこの機会に申請されることをお勧めします。

【利用できる方】

九州大学に所属する教職員・研究員・研究生・院生・学生のみなさんがご利用になれます。

図書館の利用者 ID が必要です。図書館利用者票（2000年4月以降入学の方は学生証が図書館利用者票を兼ねています）を持っていない方は、まず図書館利用者登録を行ってください。

【利用申請方法】

1. 利用申請書に記入
 2. 利用申請書を受付窓口に提出
 3. 初期パスワードがEメールで通知される
- 詳しくは下記をご覧ください。

(<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/websevice/guide/application.html>)

利用申請についての問い合わせ先

箱崎地区：中央図書館相互利用掛 < sogo@lib.kyushu-u.ac.jp >

病院地区：医学分館閲覧掛 < mede@lib.kyushu-u.ac.jp >

大橋地区：芸術工学分館情報サービス掛 < toshokan@design.kyushu-u.ac.jp >

筑紫地区：筑紫分館図書掛 < chikushi@lib.kyushu-u.ac.jp >

六本松地区：六本松分館閲覧掛 < etsuran@rc.kyushu-u.ac.jp >

箱崎キャンパス受入目録業務の中央図書館集中化について

附属図書館では、平成16年4月より、大学法人化に伴い、図書及び雑誌の箱崎キャンパスの受入・目録関係業務の一部を中央図書館へ集中化しました。図書館業務システムと財務会計システムの連動を図り、さらにキャンパス移転を視野に入れた、図書関係業務の再編と集中化への第一歩となります。

図書は、従来より中央図書館で担当していた理学農学系の受入目録業務に加えて、文系4部局の購入分受入業務と工学系の受入・目録業務を集中化しました。これを機に、工学系図書の請求記号体系は中央図書館と同じ「NDC/著者記号/資料番号」に変更されました。今後、業務集中化と標準化により、納品から目録登録・装備までの期間短縮を目標としております。

雑誌は、従来から中央図書館で処理していた購読

洋雑誌の支払い関係に加え、箱崎キャンパスの各部局図書室で行っていた購読洋雑誌の受付および購読和雑誌の受付・支払処理を中央図書館に集中化いたしました。

中央図書館で、処理された文系地区及び工学系の図書・雑誌資料は、配送システムを使って各図書室に届けられます。

図書・雑誌の納品先・配送先変更などの処理、財務会計システムの稼働状況などにより、年度当初は遅れも予想され、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、職員一同迅速処理に努めておりますので、よろしくお願いたします。

(附属図書館情報管理課)

平成16年度電子ジャーナルアクセス可能タイトル数

出版社等	タイトル数	出版社等	タイトル数
American Chemical Society	30	MCB Univ. Press (Emerald Fulltext)	110
American Institute of Physics	26	Nature Publishing Group	18
American Society of Mechanical Engineers	19	OECD (SourceOECD)	19
Association for Computing Machinery	87	Oxford University Press	5
Blackwell Publishing (Synergy)	630	ProQuest (Academic Research Library)	2,700
Cambridge University Press	59	ProQuest (Health & Medical Complete)	588
Cell Press	5	Sage Publications	50
EBSCOhost (Business Source Premier)	3,600	Science	1
Elsevier Science (Science Direct)	1,800	Springer (LINK)	455
IEEE (ASPP Online, POP Online)	114	Taylor & Francis	521
Institute of Physics	14	Thieme	3
Journals@Ovid	11	University of Chicago Press	30
JSTOR (Arts & Sciences Collection 1 2)	230	Wiley (InterScience)	330
Karger	75	World Scientific Publishing	20
Kluwer (Kluwer Online)	650	その他	129
LexisNexis (Academic & lexis.com)	2,600		
Lippincott Williams and Willkins	15	合計	14,944

平成16年度附属図書館商議委員名簿

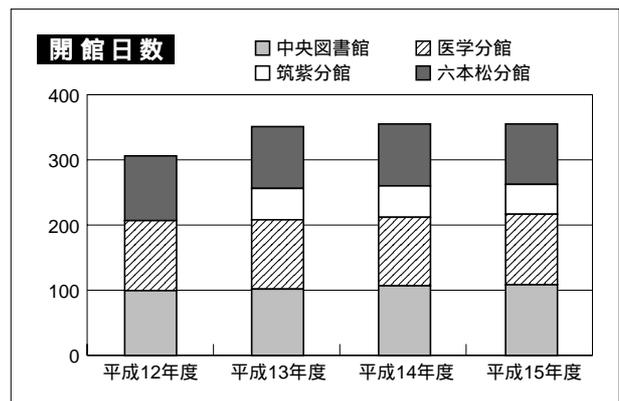
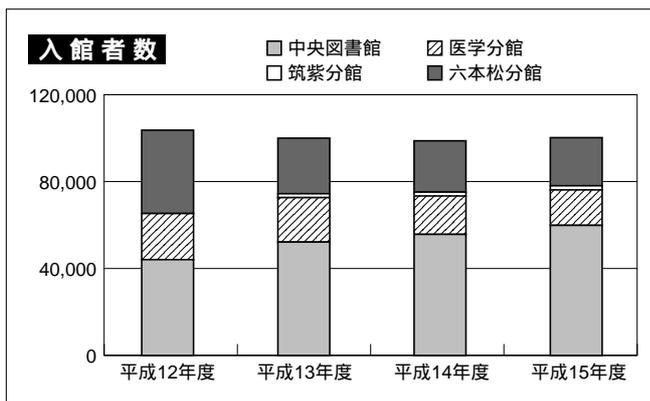
平成16年7月1日現在

委員	長	今西裕一郎	(理事・副学長 図書館長)	
委員		荒木啓二郎	(システム情報科学研究院 教授)	副館長)
"		野瀬善明	(医学研究院 教授)	医学分館長)
"		大西修也	(芸術工学研究院 教授)	芸術工学分館長)
"		経塚雄策	(総合理工学研究院 教授)	筑紫分館長)
"		田島松二	(言語文化研究院 教授)	六本松分館長)
"		村上和彰	(システム情報科学研究院 教授)	情報基盤センター長)
"		柳原正治	(法学研究院 教授)	留学生センター長)
"		柴田篤策	(人文科学研究院 教授)	
"		濱田耕策	(" ")	
"		清水靖久	(比較社会文化研究院 教授)	
"		吉田昌彦	(" ")	
"		關一敏	(人間環境学研究院 教授)	
"		望田研吾	(" ")	
"		熊谷健一	(法学研究院 教授)	
"		木佐茂男	(" ")	
"		大下丈平	(経済学研究院 教授)	
"		濱砂敬郎	(" ")	
"		小谷耕二	(言語文化研究院 教授)	
"		田中俊明	(" ")	
"		宮原三郎	(理学研究院 教授)	
"		石黒慎一	(" ")	
"		松井卓修	(数理学研究院 教授)	
"		佐伯修	(" ")	
"		石橋達朗	(医学研究院 教授)	
"		吉村惠	(" ")	
"		中西博久	(歯学研究院 教授)	
"		山下喜久	(" ")	
"		植田正	(薬学研究院 教授)	
"		財津潔	(" ")	
"		桜井晃	(工学研究院 教授)	
"		内野健一	(" ")	
"		石村真一	(芸術工学研究院 教授)	
"		藤枝守	(" ")	
"		赤岩芳彦	(システム情報科学研究院 教授)	
"		原雅則	(" ")	
"		栃原浩治	(総合理工学研究院 教授)	
"		益田光治	(" ")	
"		久原哲	(農学研究院 教授)	
"		村田武	(" ")	
"		谷憲三郎	(生体防御医学研究所 教授)	
"		尹宗煥	(応用力学研究所 教授)	
"		三島正章	(先導物質化学研究所 教授)	
"		山本和彦	(健康科学センター 教授)	
"		石井保廣	(附属図書館 事務部長)	

平成15年度九州大学附属図書館入館者統計

部 局	中央図書館	%	医学分館	%	六本松分館	%	合 計	%
文学部	24,628	5.76	112	0.08	13,709	7.07	38,449	5.08
教育学部	8,356	1.95	175	0.13	3,473	1.79	12,004	1.59
人間環境学研	9,705	2.27	261	0.19	361	0.19	10,327	1.36
法学部	47,788	11.17	291	0.22	21,344	11.00	69,423	9.17
経済学部	32,255	7.54	238	0.18	16,357	8.43	48,850	6.45
理学部	58,198	13.61	305	0.23	26,493	13.65	84,996	11.23
数理学研	9,180	2.15	34	0.03	458	0.24	9,672	1.28
工学部	74,272	17.36	115	0.09	50,415	25.98	124,802	16.49
システム情報	3,726	0.87	47	0.03	47	0.02	3,820	0.50
農学部	64,177	15.00	197	0.15	18,318	9.44	82,692	10.92
医学部	4,611	1.08	74,206	54.86	11,569	5.96	90,386	11.94
医学部附属病院	51	0.01	6,776	5.01	75	0.04	6,902	0.91
歯・歯学部病院	1,731	0.40	12,552	9.28	2,378	1.23	16,661	2.20
医療短大	2,102	0.49	13,159	9.72	23	0.01	15,284	2.02
薬学部	1,197	0.28	10,288	7.61	5,387	2.78	16,872	2.23
生医研	42	0.01	1,295	0.96	0	0.00	1,337	0.18
比較社会文化研	4,222	0.99	45	0.03	15,894	8.19	20,161	2.66
言語文化研	629	0.15	27	0.02	793	0.41	1,449	0.19
高等教育総合開発研究センター	64	0.01	0	0.00	319	0.16	383	0.05
情報基盤センター	335	0.08	0	0.00	870	0.45	1,205	0.16
総合理工学研	1,292	0.30	20	0.01	37	0.02	1,349	0.18
応用力学研究所	37	0.01	0	0.00	5	0.00	42	0.01
先導物質科学研究所	541	0.13	6	0.00	2	0.00	549	0.07
健康科学センター	20	0.00	39	0.03	40	0.02	99	0.01
先端科学技術共同センター	18	0.00	0	0.00	0	0.00	18	0.00
石炭研究資料センター	5	0.00	0	0.00	1	0.00	6	0.00
留学生センター	3,880	0.91	2	0.00	91	0.05	3,973	0.52
韓国研究センター	57	0.01	0	0.00	0	0.00	57	0.01
生物資源研究センター	0	0.00	130	0.10	0	0.00	130	0.02
知的財産本部	6	0.00	0	0.00	0	0.00	6	0.00
システム生命科学	1,556	0.36	107	0.08	5	0.00	1,668	0.22
芸術工学部	333	0.08	35	0.03	83	0.04	451	0.06
図書館	1,314	0.31	60	0.04	242	0.12	1,616	0.22
事務局	303	0.07	1	0.00	18	0.01	322	0.04
学務部	1,347	0.31	0	0.00	6	0.00	1,353	0.18
21世紀プログラム	634	0.15	16	0.01	793	0.41	1,443	0.19
放送大学	321	0.08	2	0.00	9	0.00	332	0.04
総合研究博物館	84	0.02	1	0.00	2	0.00	87	0.01
その他(元教官・卒業生等)	31,752	7.43	6,099	4.51	2,295	1.19	40,146	5.30
その他(他大学)	4,259	1.00	5,286	3.91	337	0.18	9,882	1.31
その他(一般市民)	32,721	7.65	3,327	2.46	1,777	0.92	37,825	5.00
合 計	427,749	100.00	135,254	100.00	194,026	100.00	757,029	100.00

休日における図書館利用状況および開館日数



平成15年度 図書館利用統計

	中央図書館	医学分館	芸術工学分館	筑紫分館	六本松分館	合計	
入館者数 (学外者：内数)	427,749 (64,774)	135,254 (14,712)	53,476 (1,443)	24,231 (242)	194,026 (4,568)	834,736 (85,739)	
館外貸出冊数	73,199	21,845	51,912	4,416	42,111	193,483	
内訳 {	教職員	4,968	33,409	606	11,469	56,810	
	学生・院生等	66,113	16,235	18,319	3,805	135,114	
	学外者	728	642	184	5	1,559	
レファレンス件数	6,037	12,324	166	880	7,444	26,851	
内訳 {	教職員	692	7,887	9	625	744	9,957
	学生・院生等	3,382	3,821	123	255	6,511	14,092
	学外者	1,963	616	34	0	189	2,802
内訳 {	所在調査	2,554	9,605	3	528	3,000	15,690
	事項調査	631	166	50	264	4	1,115
	利用指導・その他	2,852	2,553	113	88	4,440	10,046
オンライン情報検索サービス件数	4	82	-	-	-	86	
内訳 {	DIALOG	3	6	-	-	-	9
	JOIS	1	76	-	-	-	77
	NACSIS - IR	0	0	-	-	-	0
文献複写サービス件数	183,211	69,778	2,267	-	12,796	268,052	
学内者の複写件数	165,221	28,728	445	-	11,503	205,897	
学外からの受付件数	13,594	38,120	572	-	-	52,286	
内訳 {	国内	13,582	38,100	572	-	-	52,254
	国外	12	20	0	-	-	32
学外への依頼件数	4,396	2,930	1,250	-	1,293	9,869	
内訳 {	国内	4,351	2,886	1,249	-	1,287	9,773
	国外	45	44	1	-	6	96
図書・雑誌の相互貸借件数	2,879	124	292	-	1,253	4,548	
他機関への貸出件数	2,162	75	174	-	681	3,092	
他機関からの借用件数	717	49	118	-	572	1,456	
内訳 {	国内	717	49	118	-	572	1,456
	国外	0	0	0	-	0	0

平成15年度 データベース利用統計

データベース名	件数	データベース名	件数	
WEB of Science	408,620	NSCDNet	1,507	
Ovid Net 2	51,974	内訳 {	医学中央雑誌	234
Current Contents	23,769		Journal Citation Reports	550
Eric	231		JICST 科学技術用語シソーラス	371
Medline	22,553		今日の診療	352
PsycInfo	4,241		医学中央雑誌 Web 版	17,851
CancerLit	147		SciFinder Scholar	43,611
EBMR	261	合計	523,563	
EconLit	473			
CINAHL	299			

*NSCDNet については、平成15年12月でサービス提供を終了。

人事異動

(平成16年3月1日から平成16年5月31日)

(中央図書館)

- 3.31 有川 節夫 (附属図書館長) 任期満了
 " 藤田 昌也 (副館長) 任期満了
 " 末信千代子 (図書情報第二掛(経済学部担当)) 退職
 " 村野 良枝 (データベース掛事務補佐員) 退職
- 4.1 今西裕一郎 附属図書館長(理事・副学長)(任期は平成17年11月6日まで)
 " 荒木啓二郎 副館長(大学院システム情報科学研究院教授)(任期は平成17年11月6日まで)
 " 喜田 拓也 (研究開発室講師) 北海道大学大学院情報科学研究科助教授へ
 " 藤井 明 (情報サービス課長) 一橋大学学術・図書部学術情報課長へ
 " 片山 淳 情報サービス課長(情報システム課長から)
 " 甲斐 重武 情報システム課長(佐賀大学学術研究協力部情報図書館課長から)
 " 栗山 平 (情報管理課課長補佐) 福岡教育大学情報管理課長へ
 " 菊池 重良 情報管理課課長補佐(農学部専門員から)
 " 宮原 彰 (会計掛長) 医系学部等財務課用度掛長へ
 " 柴田 勝美 会計掛長(主計課専門職員から)
 " 井ノ上俊哉 図書情報第一掛長(医学分館参考調査掛長から)
 " 山崎 法子 図書情報第一掛(図書情報第二掛(文学部担当)から)
 " 山口 良子 図書情報第一掛(医系学部等総務課別府地区研究所掛から)
 " 山根 泰志 図書情報第一掛(採用)
 " 芦北 卓也 (図書情報第二掛(文学部担当)) 福岡教育大学情報管理課へ
 " 山田恵津子 図書情報第二掛事務補佐員(工学部等図書掛事務補佐員から)
 " 藤原 園江 図書情報第二掛事務補佐員(採用)
 " 渡邊由紀子 雑誌情報掛長(六本松分館閲覧掛長から)
 " 轟 朋子 雑誌情報掛(採用)
 " 金丸委津子 雑誌情報掛事務補佐員(情報サービス第二掛事務補佐員から)
 " 熊本 房子 雑誌情報掛事務補佐員(採用)
 " 天野 美保 雑誌情報掛事務補佐員(採用)
 " 長野 玲奈 雑誌情報掛事務補佐員(採用)
 " 今泉登美子 雑誌情報掛事務補佐員(採用)
 " 詫間沙由香 雑誌情報掛事務補佐員(庶務掛事務補佐員から)
 " 松永 由紀 情報サービス第一掛長(医学分館閲覧掛長から)
 " 一木 隆子 情報サービス第二掛事務補佐員(図書情報第二掛(法学部担当)事務補佐員から)
 " 高田 宏昭 相互利用掛長(鹿児島大学附属図書館情報サービス課参考調査係長から)
 " 森永 恵子 相互利用掛事務補佐員(採用)
 " 服部 綾乃 参考調査掛(電子情報掛から)
 " 小野真由美 電子情報掛(経済学部図書掛から)
 " 山本 葉子 (データベース掛事務補佐員) 法学部事務補佐員へ
- 4.30 篠田 葉子 (データベース掛事務補佐員) 退職
- 5.1 池田 大輔 研究開発室助教授(情報基盤センター講師から)

(医学分館)

- 3.31 常岡 正子 (受入目録掛) 定年退職
 4.1 野瀬 善明 医学分館長(再任)(任期は平成18年3月31日まで)
 " 緒方 義信 受入目録掛長(相互利用掛長から)
 " 秋月 和美 受入目録掛(文学部図書掛から)
 " 田野 信子 受入目録掛事務補佐員(相互利用掛事務補佐員から)
 " 釘宮 和呼 受入目録掛事務補佐員(閲覧掛事務補佐員から)
 " 渡辺龍之助 閲覧掛長(六本松分館目録掛長から)
 " 鳥居 愛 閲覧掛(受入目録掛から)
 " 安永振一郎 相互利用掛長(附属図書館情報サービス課情報サービス第一掛長から)
 " 下川 享子 相互利用掛(経済学部図書掛から)
 " 三浦 誠 参考調査掛長(受入目録掛長から)

(筑紫分館)

- 3.31 根本 紀夫 (筑紫分館長) 任期満了
 4.1 経塚 雄策 筑紫分館長(大学院総合理工学研究院教授)(任期は平成18年3月31日まで)
 " 筒井 信子 図書掛事務補佐員(応用力学研究所図書室事務補佐員から)
 " 江藤 由美 図書掛事務補佐員(先導物質化学研究所図書室事務補佐員から)

(六本松分館)

- 3.31 吉田 昌彦 (六本松分館長) 任期満了
 4.1 田島 松二 六本松分館長(大学院言語文化研究院教授)(任期は平成18年3月31日まで)
 " 田村 雅生 目録掛長(九州工業大学附属図書館情報管理係長から)
 " 沖 政広 閲覧掛長(宮崎大学学術研究協力部情報図書課利用サービス係長から)

(文学部)

- 4.1 有田 順一 図書掛(医学分館受入目録掛から)

(教育学部等)

- 3.31 井出 公東 (図書掛) 定年退職
 4.1 臼井 雅子 図書掛(六本松分館受入掛から)

(法学部)

- 3.31 山根 良夫 (図書掛長) 退職
 " 高田 裕文 (図書掛) 退職 滋賀県立図書館へ
 4.1 林田 和政 図書掛長(附属図書館情報管理課図書情報第一掛長から)
 " 児玉 浩憲 (図書掛) 鹿屋体育大学学術図書情報課図書サービス係へ
 " 秋月 滋 図書掛(附属図書館情報管理課図書情報第二掛(教育学部等担当)から)

(経済学部)

- 3.31 松田 尚代 (図書掛長) 定年退職
 4.1 山崎 弘人 図書掛長(附属図書館情報サービス課相互利用掛長から)
 " 吉松 直美 図書掛(附属図書館情報管理課図書情報第二掛(経済学部担当)から)

(生体防御医学研究所)

- 4.1 萩尾 美香 医系学部等総務課別府地区研究所掛事務補佐員(採用)
 情報基盤センター図書館分室
 4.1 小川 稔 (電子図書館掛長) 宮崎大学学術研究協力部情報図書課長へ
 " 瓜生 照久 電子図書館掛長(附属図書館情報管理課雑誌情報掛長から)

図書館日誌

(平成16年3月1日～平成16年5月31日)

- 3.9 第1回福岡県各種図書館連絡会議(福岡県立図書館)
- 3.10 電子ジャーナル・タスクフォース(東京大学)
- 3.12 アジア関係機関懇談会(国立国会図書館関西館)
- " 研究開発室会議(中央図書館)
- 3.15 元岡新キャンパス見学会(16日も)
- 3.22 附属図書館商議委員会(中央図書館)
- 3.24 全学図書系掛長会議(中央図書館)
- 3.26 福岡県立図書館と相互貸借に関する協定締結(中央図書館)
- " 全学図書系職員向け法人化説明会(中央図書館)
- 3.30 研究開発室会議(中央図書館)
- 4.7 ソウル大学校総長・中央図書館長他4名来館
- 4.19 新筑紫分館開館(筑紫分館)
- 4.22 九州地区国立大学図書館協会(福岡ガーデンパレス)
- 4.23 九州地区大学図書館協議会総会(福岡ガーデンパレス)
- 5.10 開学記念・附属図書館貴重文物展示会「シーボルトが観た日本 - NIPPON 初版本図版から」
(中央図書館: ~19日、医学分館: ~15日)
- 5.14 電子ジャーナル・タスクフォース(東京大学)
- 5.15 開学記念・附属図書館公開講演会(中央図書館)
「日本情報編集者としてのシーボルト」宮坂正英 長崎純心大学教授
「“再発見”シーボルト『NIPPON』」宮崎克則 九州大学総合研究博物館助教授
- 5.19 ソウル大学校中央図書館長他6名来館、図書館業務交流に関する協議、覚書調印
- 5.20 九州大学・ソウル大学校による国際セミナー「響きあう図書館ルネッサンス:日韓大学図書館の最新技術と図書館協力」(筑紫分館)
- " 国立大学図書館協会常務理事会(東京大学)
- 5.21 国立大学図書館協会賞受賞者選考委員会、国立大学図書館協会理事会(東京大学)
- 5.25 文献複写料金決済処理説明会(中央図書館)(31日も)
- 5.28 福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会(西南女学院大学)

自 著 紹 介

西田迪雄(工学研究院・教授)

「気体力学:常温から高温まで」

西田迪雄著
吉岡書店 2004.2

[中央図書館 423.88/N 81]

物体が気体中を音速以上の速さで飛行すると(超音速飛行という)、その全面にあるいは先端に付着した衝撃波が発生する。このような超音速飛行体に相対的な流れは超音速流と呼び、気体に圧縮性の効

果が現れる。これは流れの速さが音速以下の場合には現れなかったもので、具体的には密度が一定ではなくなることによる。また、気体をノズルと呼ばれるラッパ状の広がり管を通して低圧側へ流すと、低圧側の圧力が十分低いときには、気体はノズル内で膨張しながら低圧側へ流れ出る。

本書ではこのような気体の圧縮と膨張を理解してもらうことを目的としている。

本書の特色は、常温から高温まで扱える気体力学を記述していることである。すなわち、本書の後半で高温領域でも使用できる比熱を微視的観点から導

出すとともに、常温から高温までの一般的な気体力学の基礎式の誘導を行っている。

本書の前半は気体力学を巨視的観点から記述しており、大学学部学生を対象としている。後半は微視的観点に基づく記述となり、主として大学院生を対象にしている。

高尾征治 (工学研究院・助手)

「量子水学説」

高尾征治著
CMF 国際大学 2004 . 4
[中央図書館 431 / Ta 48]

1996年、徳間書店から拙著『脳内パラダイム革命がもたらす新しい宇宙生命像』pp.1-326 (1996) を出版し、21世紀をリードする可能性を秘めた「新しい哲学的パラダイムと世界観」(弁証法的物神一元論)を世界にさきがけて提唱しました。それ以来、5年間、拙著の内容を1995年、日本学術会議への加盟が哲学的領域で承認された研究発表を行い、4編の原著審査論文にまとめました。それが一段落した2000年以来、企業の方々が開発した従来科学では科学的説明がつけられない新しい技術を参考にさせて頂きながら、人為によらない自然におきる原子転換現象を理論、実験の両面から研究し、専門の化学工学会などで発表してきました。その結果、新しい哲学的な枠組みのもとで量子水理論、ニュートリノ励

起原子ラジカル説などを創出することができました。本書はこれらの学会活動を通じて蓄積してきた論文、講演要旨あるいは対談記事などをまとめたものです。

辻 雅男 (農学研究院・教授)

「アジアの農業近代化を考える：東南アジアと南アジアの事例から」

辻 雅男著
九州大学出版会 2004 . 3
[中央図書館 611 .15 / Ts 41]

アジア農業は市場競争原理のグローバル化の中で、従前の自然依存型農業システムから資本依存型農業システムに大きく変質しつつある。すなわち農業近代化の展開である。

本書はこの農業近代化、とりわけ稲作農業の近代化がどう展開しているかを東南アジアと南アジアの農業を対象に分析する。

具体的には「緑の革命」という技術変革や社会主義経済制度から資本主義経済制度への制度変革を契機に展開する農業生産システムの近代化、農家生活の福祉向上を求めて展開する農産物流通システムの近代化、そしてその近代化がアジアの稲作農村共同体に及ぼす影響などについて考察する。

本書は豊富な具体的事例をもとに、判りやすく解説されており、最近のアジアの農業動向を知る上で最善かつ格好な書である。

本学関係者著作寄贈図書

蔵書の充実を図るため、図書館では著作物刊行の節は一部ご寄贈くださるようお願いしております。今回は、下記の教官からご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

寄 贈 者	書 名 等	寄 贈 先
西田迪雄 工学研究院・教授	気体力学：常温から高温まで / 西田迪雄著 吉岡書店、2004 2	中央図書館 423 .88 / N 81
高尾征治 工学研究院・助手	量子水学説 / 高尾征治著 CMF 国際大学、2004 4	中央図書館 431 / Ta 48
辻 雅男 農学研究院・教授	アジアの農業近代化を考える：東南アジアと南アジアの事例から / 辻雅男著 九州大学出版会、2004 3 (Kuario 叢書；3)	中央図書館 611 .15 / Ts 41
成田吉徳 先導物質化学研究所・教授	基礎有機化学 / Ralph J. Fessenden, Joan S. Fessenden 著；成田吉徳訳 化学同人、2004	中央図書館 437 / F 22
施 光恒 比較社会文化研究院・助教授	現代規範理論入門：ポスト・リベラリズムの新展開 / 有賀誠、伊藤恭彦、松井暁編 ナカニシヤ出版、2004 5	中央図書館 309 .04 / A 71

分館・図書室等の案内

医学分館

いま医学分館では、正面にあるスズカケの木「ヒボクラテスの木」が若葉を茂らせています。

当館は馬出の病院キャンパス内にあり、医学、歯学、薬学分野を中心とした教育と研究、医療を支援する図書館です。また、本館は昭和52年から、文部科学省（当時の文部省）により、学術情報基盤整備を図るための「医学・生物学系外国雑誌センター館」に指定されており、全国の研究者等へ文献複写を中心としたサービスを提供しています。

分館のホームページ（<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/libinf/med/index.html>）もぜひ活用し

てください。学内限定の検索データベースとして、医学中央雑誌、Web of Science、MEDLINEなどにアクセスでき、検索の手引きも掲載しています。貴重資料等の展示としては、「貴重古医書コレクション」「『東西の古医書に見られる身体』展観」「シーボルト『NIPPON』」を公開しています。

館内の閲覧室や廊下にはピカソのリトグラフやポスター約70点が展示されています。これは前医学分館長井上尚英氏より寄贈されたもので、館内に明るいくつろげる空間を作りだしています。

概要	蔵書数：341,244冊 所蔵雑誌数：11,540種
開室時間	平日（月～金）9：00～21：00 休日（土・日・祝日）9：30～17：00 病院地区の5～6年生、研究者で緊急の資料調査、検索、複写等を目的とし、予め分館長の許可を得た者を対象に無人開館を行っています。
休館日	平成16年8月9日（月）～平成16年8月15日（日）（図書点検および館内消毒等） 平成16年12月28日（火）～平成17年1月4日（火）（年末年始）
貸出期間	雑誌：2日間 図書：8日間
貸出冊数	学生：3冊 院生：5冊 教官：10冊
備考	新着欧文雑誌（到着後一週間）・参考図書・貴重図書・視聴覚資料等は貸出できません。 *利用に関する問い合わせ先：医学分館閲覧掛（092-642-6037、6038）

（秋月和美 医学分館受入目録掛）

新図書館だより

新図書館推進室

第6回

理系図書館が竣工します

昨年6月に着工された理系図書館が間もなく竣工します。現在建物本体の工事を終え、外構の整備が7月末に完了する予定です。理系図書館の施設の詳細については、稿を改めてご紹介します。

右図：南東側から見た理系図書館
（平成16年5月31日現在）



お詫びと訂正

前号（Vol. 39 No. 3）の自著紹介において、「リベラリズムの再生」の自著紹介者について誤りがありました。施光恒助教授（比較社会文化研究院）からの紹介でした。お詫びして訂正させていただきます。